

市民交流センター(仮称) 防災展示学習ゾーン

展示計画(案)

目次

各機能及び前回までの意見……01

展示配置(ゾーニング)……02

イメージパース……03

宮古市と津波ゾーン ……04～05

東日本大震災-「被災と復興」「東日本大震災の教訓」

「自然災害の脅威」- ゾーン……06




防災・伝承ライブラリー ゾーン……07～08

企画展イメージ……09

他施設の事例……10～11

2016年10月28日

1. 機能

機 能		展示で紹介する主な内容
アーカイブ機能 （記録保存）	震災の記憶を風化させないために、東日本大震災の被災状況や復興過程に関する写真、映像、証言、図書等を収集し、公開します。過去の津波に関する資料も対象とし、繰り返し襲来した津波による甚大な被害を乗り越えてきた先人たちの逞しさを振り返ります。	・津波被害の歴史（宮古の原風景、津波襲来、被災した町、復興の取り組み） ・東日本大震災の被災と復興 ・宮古震災ライブラリー（図書、報告書、写真集、紙芝居等）
セルフスタディー機能 （自主学習）	将来の災害に備えるために、過去の津波や東日本大震災から得られた教訓を整理するとともに、津波から身を守るために必要な情報を提供します。また、大雨・台風などによる災害をとりあげ、風水害に対する意識啓発を行います。	・過去の津波被害から得た教訓（先人達の取り組み、東日本大震災の教訓） ・減災への取り組み（津波を知る、津波に備える、震災発生時の行動、津波避難の考え方等） ・様々な自然災害（トピックス）
ポータル機能 （紹介）	市内の各地には、津波の被災を物語る碑等が点在し、「震災メモリアルパーク中の浜」や津波遺構「たろう観光ホテル」など、伝承のための施設が整備されています。こうした伝承施設を紹介し、来訪することを促す「窓口」となるような展示をします。	・点在する津波の痕跡（震災遺構、記念公園、各地の石碑）  『たろう観光ホテル』 田老宇野原  『震災メモリアルパーク中の浜』/ 崎山  『「海嘯鎮魂の詩」の石碑』 田老宇青砂里 （三王園地内）

2. 前回の検討委員会での意見と検討

①この防災ゾーンだけで完結せず、石碑等、実際に市内に足を運びたくなるような仕掛けづくりを検討してほしい。

■ 点在する津波の痕跡コーナーには横幅4M程度の宮古市沿岸部の地図(1/10000)を配置。下地にスチールを使うことで、地図上に現在のオススの見どころなども表示することが可能。地図には津波の浸水範囲などのほか、各地の石碑や、市内に点在する津波の痕跡を写真と共に紹介し、地域への来訪を促します。(4P)

②3.11の津波被害だけではない、古の昔からも津波があったことを忘れてはいけない。「防災学習」とうたうならば、市内の中山間地における風水害、土砂災害も取り上げるべき。

■ 自然災害の恐ろしさのコーナーを常設し、風水害・土砂災害に関するパネル展示を行うほか、防災学習Q&Aシステムで、それらの情報を閲覧できるようにします。(6P、7P)

■ 市内に残る歴史的に重要な津波の痕跡(石碑や遺構等)に関しては、＜点在する津波の痕跡＞のマップの中でどこに行ったらそれを見ることができるかの情報も併せて紹介します。(4P)

③一度見たら終わりという施設にならないよう、展示替え、企画展など更新性を重視した設計にしたい。

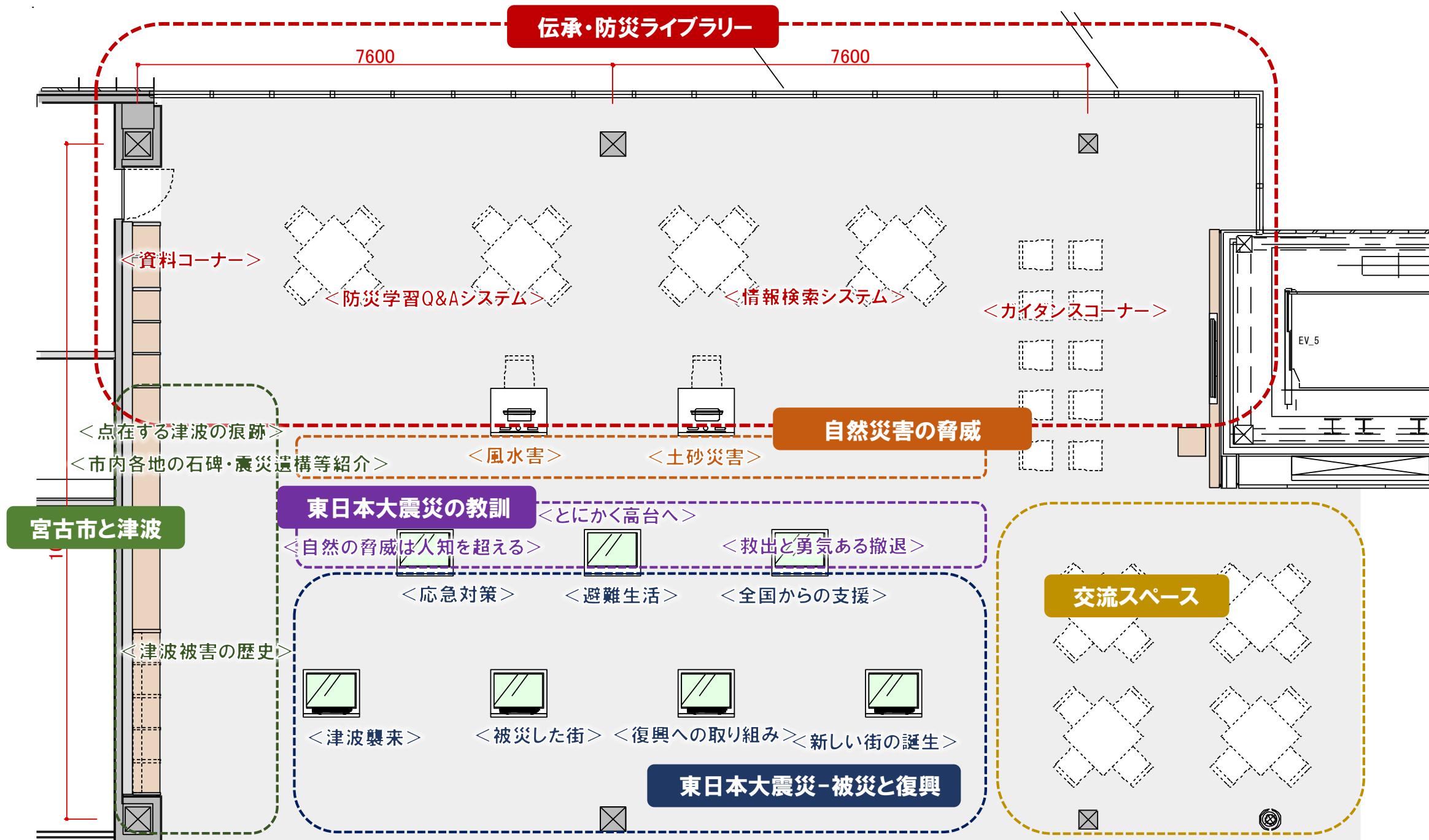
■ 中央にある什器9台は全て可動型、配置換えにより様々な企画展等にも利用可能。それぞれが情報の更新の容易な『掲示ボード』や『ケース展示』機能を持つものとします。また、耐震にも気を配り、震度7クラス対応とされている耐震アジャスターを使用。定位置においては、取り外し式で床固定をおこなえる仕組みを検討しました。(6P)

■ デジタルサイネージや情報検索システム等、常に変化があり、情報を深掘りできるシステムも導入。(6P、7P)

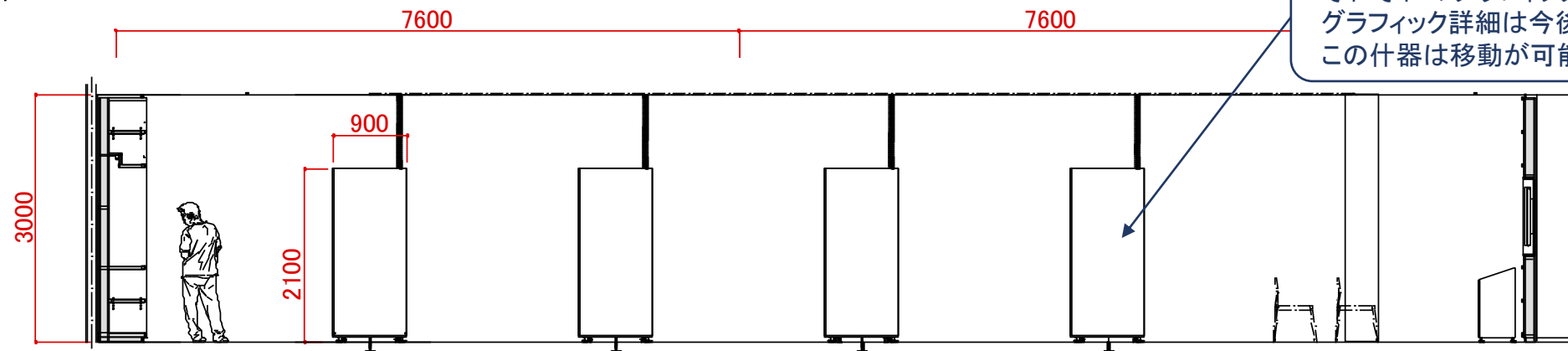
④市民が中心となり使っていく場としたい。

■ ガイダンスコーナーでは55インチ程度のモニターを設置。映像を見せたり、パソコンとつないでミニ講演会などでもできる市民が集まり活動できるしつらえとします。(8P)

平面図

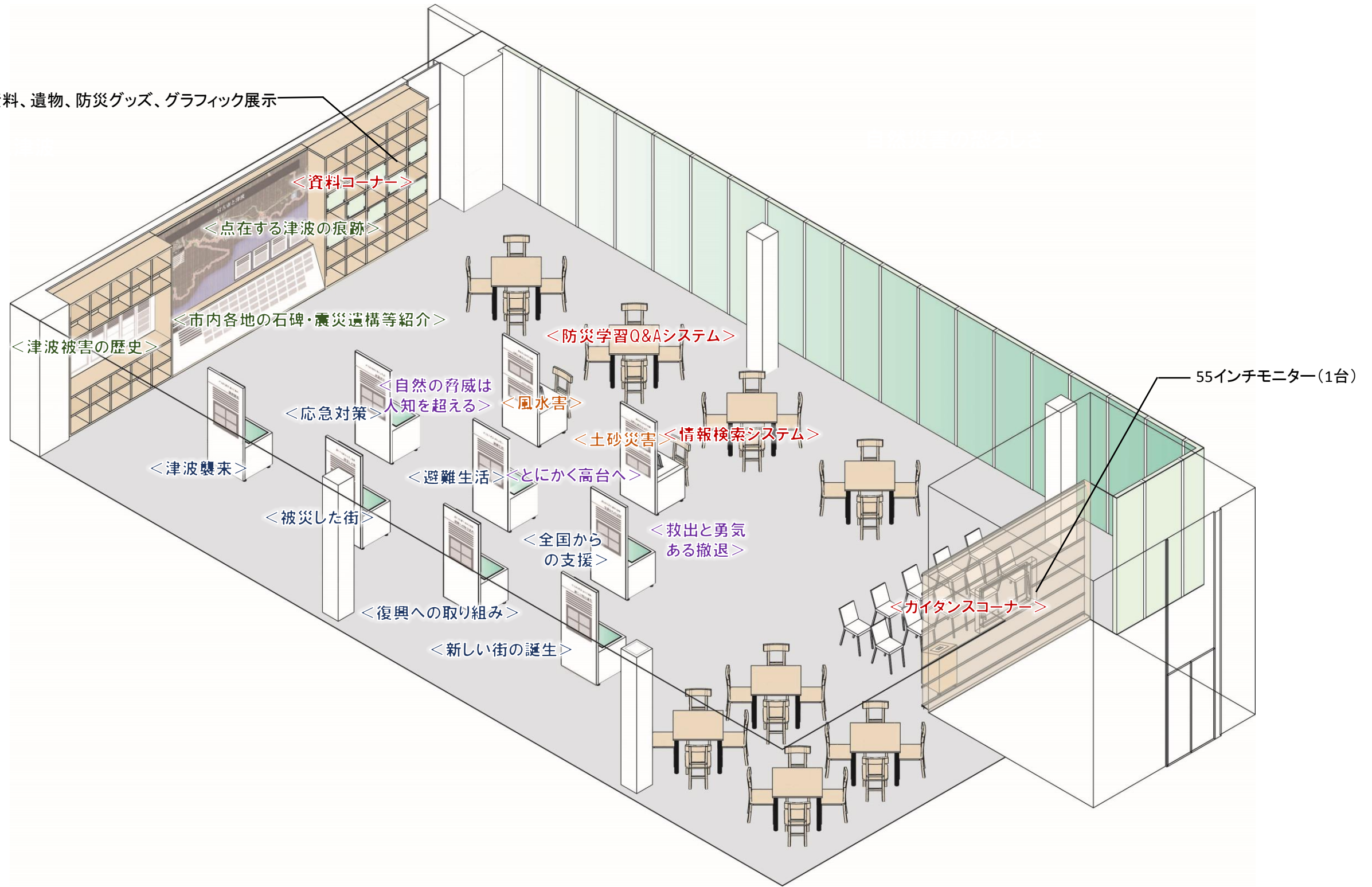


展開図



それぞれのグラフィックが見えてきます。
グラフィック詳細は今後検討。
この什器は移動が可能です。

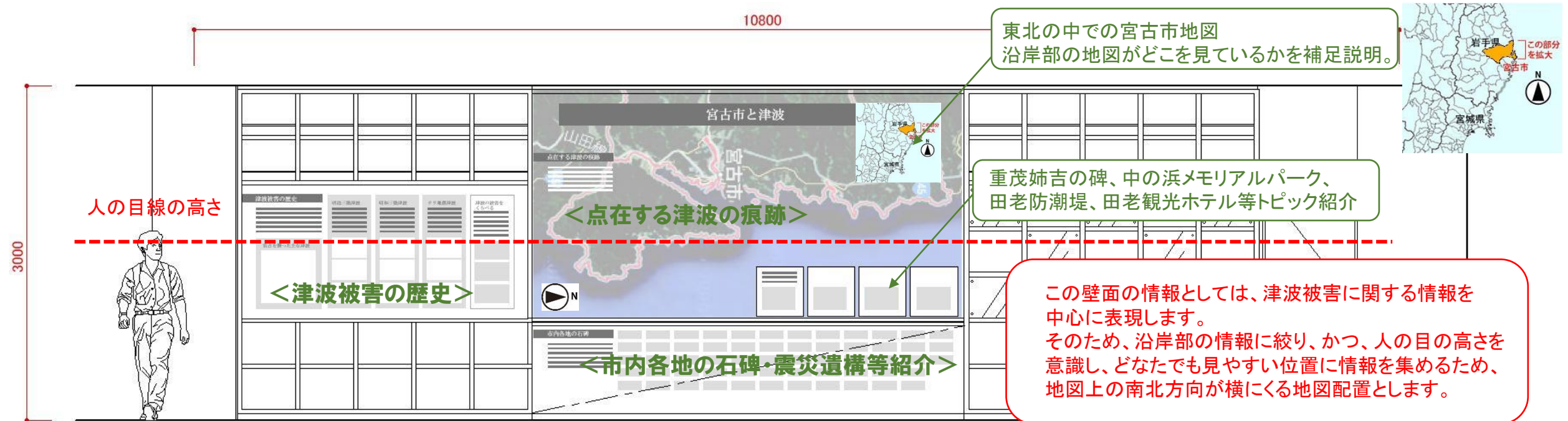
本、資料、遺物、防災グッズ、グラフィック展示



宮古市と津波

壁面の什器を利用して、宮古市と津波被害の歴史を中心とした導入展示をおこないます。

宮古市沿岸部の大型地図(W3870×H2080)も設置し、過去の津波での浸水範囲やそれぞれの時代で建てられた津波石碑や震災遺構やメモリアルパーク等についても紹介をおこない、観光客等の各地域への来訪を促します。



＜津波被害の歴史＞

明治29年三陸津波や昭和8年の三陸津波等、過去の被災を物語る展示を実施します。

年表をはじめ、各種の情報を1枚のグラフィックパネルとして編集します。

上下の棚は資料等を収納しておける本棚になっています。

発生年 (西暦)	発生日	津波の名前	死者 行方不明者 (人)
明治29年 (1896)	6月15日	明治三陸津波	21,959
昭和8年 (1933)	3月3日	昭和三陸津波	3,064
昭和35年 (1960)	5月24日	チリ地震津波	142
昭和43年 (1968)	5月16日	十勝沖地震津波	52
平成6年 (1994)	12月28日	三陸はるか沖地震津波	3
平成23年 (2011)	3月11日	東日本大震災津波	21,176 (H25.3.11)

ー明治三陸津波ー



ーチリ地震津波ー



ー昭和三陸津波ー



＜点在する津波の痕跡＞

宮古市沿岸部(1/10000)地図には、過去の津波(明治三陸、昭和三陸、チリ地震、東日本大震災)での浸水範囲が表記されています。

さらに、それぞれの時代で建てられた津波石碑の位置やたろう観光ホテル等の震災遺構やメモリアルパーク、その他市内に点在する津波の痕跡の位置が記入されています。

また、地図にはマグネットも取り付けられ、季節によっての見どころなども紹介することができます。

この様に市内の案内をおこなうことで、地域への実際の来訪を促します。

＜市内各地の石碑・震災遺構等紹介＞

上部の宮古市沿岸部地図の中で紹介された津波石碑や震災遺構について、具体的な写真を使って紹介をおこないます。

地図と現地の写真を合わせて見せることで、現地への来訪を促します。



宮古市沿岸部(1/10000)地図の情報イメージです。

過去の浸水範囲と、それぞれの時代の津波石碑の位置を改めて重ねて見ると、先人からのメッセージが見えてきます。

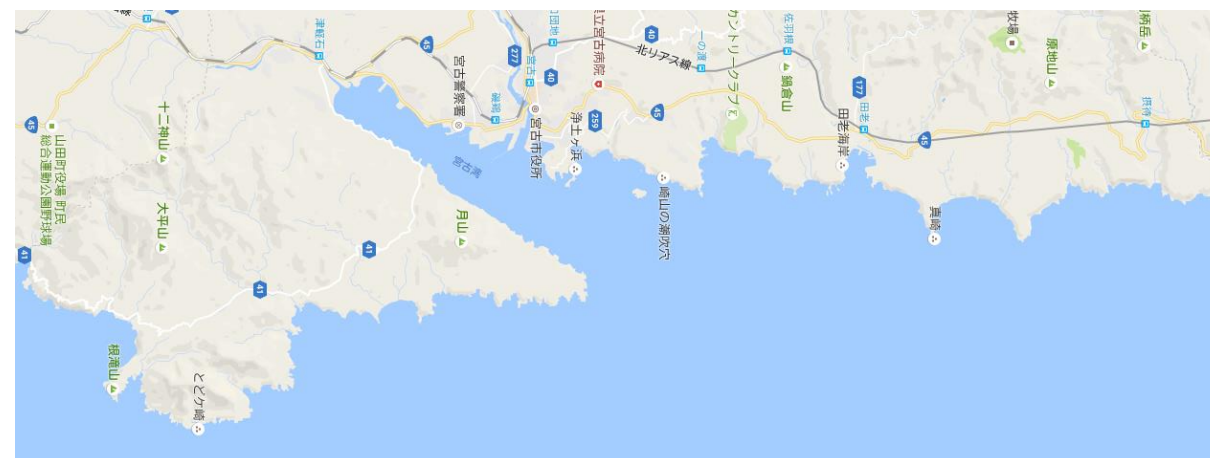
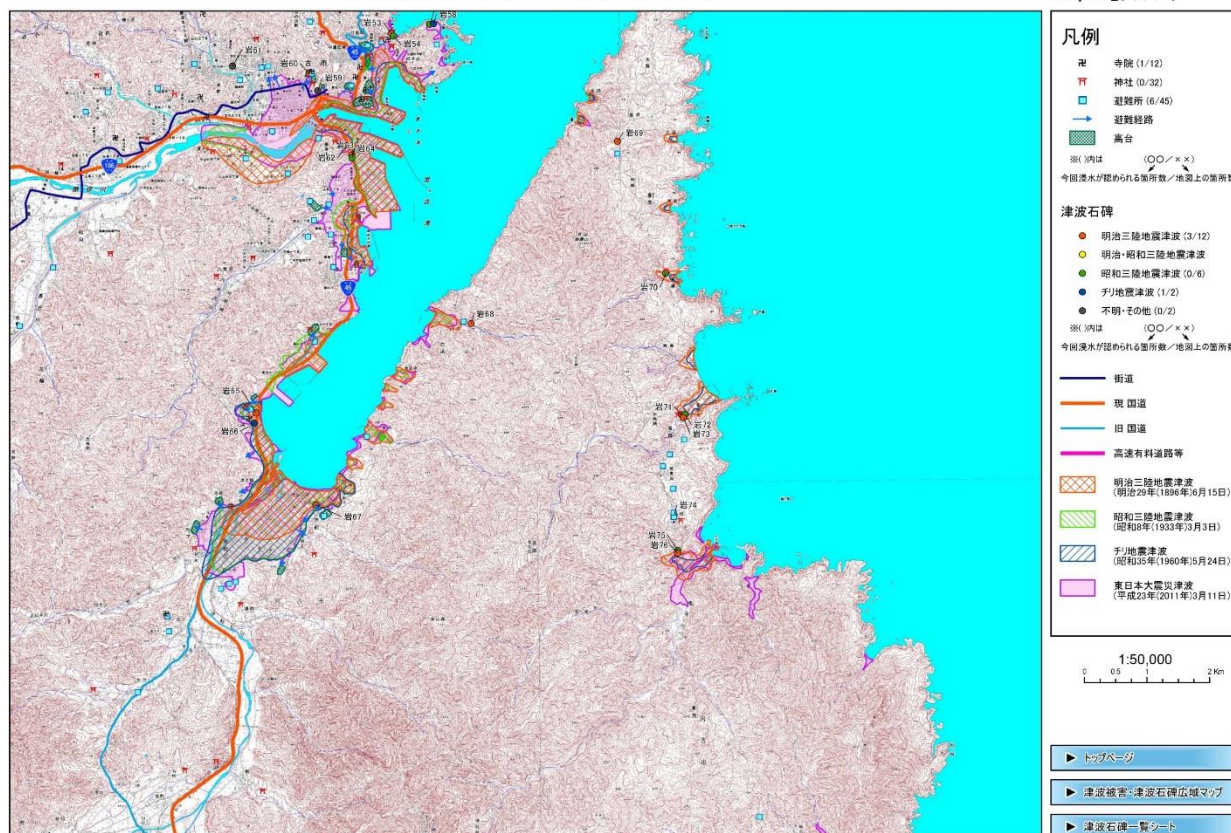
参考資料:津波被害・津波石碑状況マップ(国土交通省)東北地方整備局
道路部より

宮古市沿岸部(1/10000)地図の範囲イメージです。

地図の表現としては、航空写真を検討しています。

しかし、復興の変化の中で写真を使った方が良いのか、等高線で示した地図の方が良いのか、更新にかかる費用等も考えながら今後、検討していきます。

津波被害・津波石碑状況マップ



約37km

展示幅を3.7m(≒3600mm)とすると、1万分の1

10cm=1km

1cm=100m

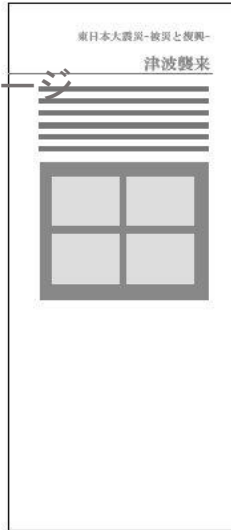
ボックスとパネルが一体化した展示什器を計9台設置します。

グラフィックや展示ケースを設置するほか、1列目の計4台にはデジタルサイネージ(電子看板)も設置します。

情報や展示物の入れ替えが容易で、企画展等にも使用できるようにします。

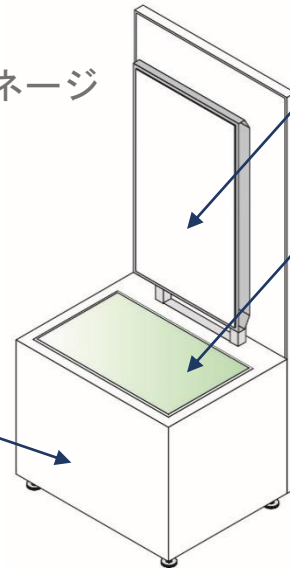
■什器通路側

グラフィックイメージ



■什器窓側

デジタルサイネージ



47インチデジタルサイネージ
(1列目4台分)

ケース展示
(中身の入れ替えは容易です)

耐震アジャスターを使用し、取り外し式で床固定できます。

■デジタルサイネージ(可変)

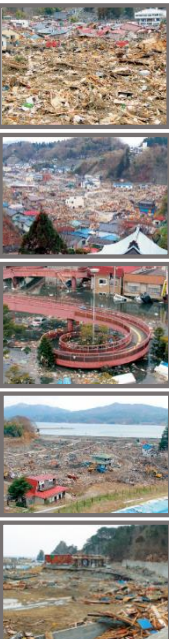
詳細情報として、各地区の状況を現す写真を、順次、紹介します。
更新性を重視し、情報を固定化しないことにも役立ってます。

摂待地区
田老地区
崎山地区
鎌ヶ崎地区
光岸地地区
中心市街地地区
磯鶏地区
藤原地区
高浜地区
金浜地区
津軽石地区
赤前地区
白浜地区
重茂地区

津波襲来



被災した町



復興への取り組み



新しい町の誕生



東日本大震災 -被災と復興-

東日本大震災 の教訓

<自然の脅威は
人知を超える>
<応急対策>

<津波襲来>

<被災した街>

<復興への取り組み>

<新しい街の誕生>

自然災害の脅威

<風水害>

<土砂災害>

<とにかく高台へ>
<避難生活>

<救出と勇気
ある撤退>
<全国からの支援>

1列目
展示什器A×4台
正面：グラフィック
背面：
47インチデジタル
サイネージ+
展示ケース

2列目
展示什器B×3台
正面：グラフィック
背面：グラフィック+
展示ケース

3列目
展示什器C×2台
正面：グラフィック
背面：掲示ボード+
22インチタッチパネル
モニター
椅子付

宮古市における過去の震災や東日本大震災を物語る図書、雑誌、報告書、絵本、紙芝居、写真集、さらに映像資料等を集めたライブラリーを設けます。来場者が、くつろぎながら、気軽に図書等を手にとることができるようにします。

このゾーンは大きく**防災学習Q&Aシステム&情報システムコーナー**＜資料コーナー＞＜ガイドダンスコーナー＞の3つに分かれます。

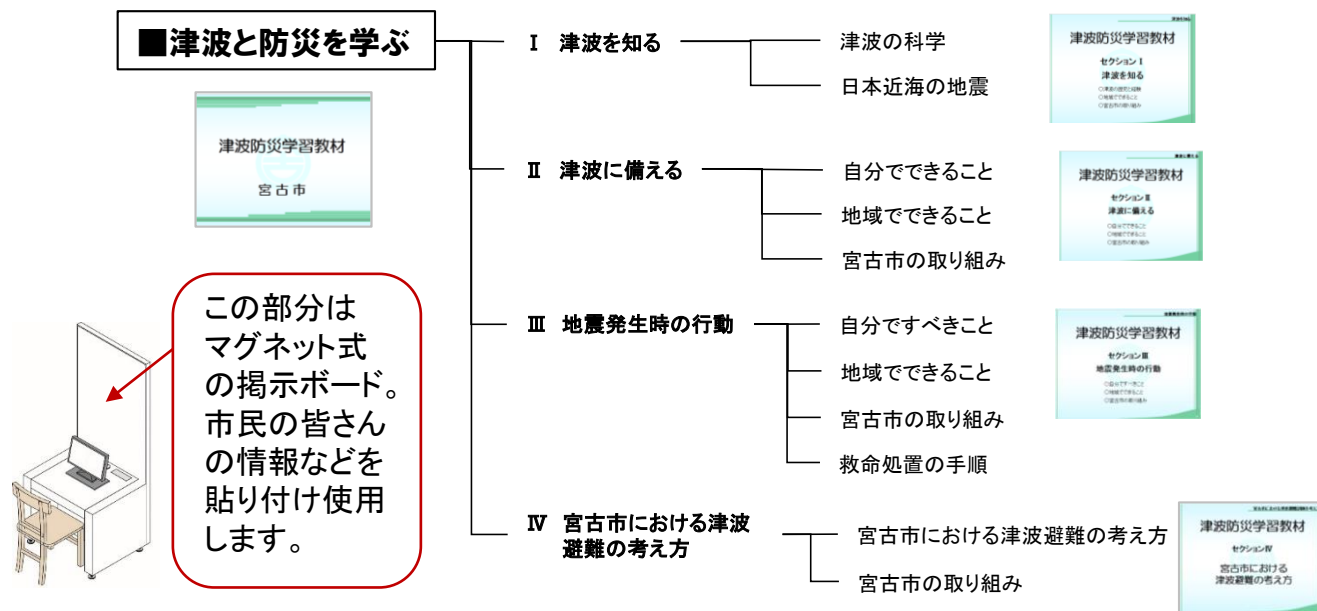
キープラン



防災学習Q&Aシステム

発災時の的確な行動力を身につけるとともに地震・津波災害への備え等を物語る展示は、「学習的な行為」が必要不可欠です。人による運営に頼ることなく、これを実現していくためにタッチパネルモニターを使った参加型Q&Aを積極的に採用します。

市が作成した「津波防災学習教材」を効果的に活用し、来場者が楽しみながら学ぶことができるQ&Aを作成します。



■さまざまな災害を学ぶ

津波だけではない自然の驚異を物語る展示も、学習効果を期待するという意味では、津波防災学習と同様の手法での対応が可能です。そこで、この内容もQ&Aに組込むものとします。

宮古で発生した風水害の歴史
広島市の土石流被害
全国各地で頻発する洪水
宮古での土石流のおそれ(ハザードマップ)

情報検索システム

検索型の電子情報は、タッチパネルモニターを使った情報検索システムとしてまとめて提供します。

■東日本大震災以前の津波写真

明治三陸津波—
昭和三陸津波—
チリ地震津波—
十勝沖地震津波



■宮古の原風景(思い出の写真)

被災前の市内各地の風景写真



■東日本大震災の被災(画像検索)

デジタルサイネージの原本となる写真4000枚を収録。地域や場所等により画像検索できるようにします。



■津波体験者の証言(動画映像)

宮古市をはじめ、関係機関が撮影している過去の津波や東日本大震災の津波体験者の証言映像を集めて視聴できるようにします。



その他、県立水産科学館が集めている、市民が撮影した津波襲来の記録映像等を紹介することも考えられます。

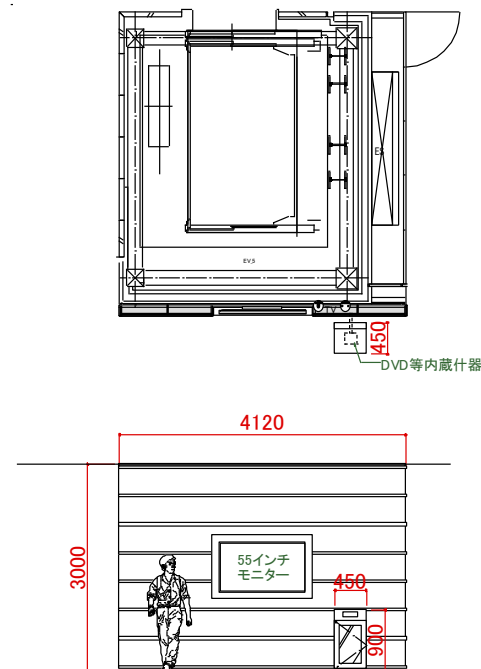
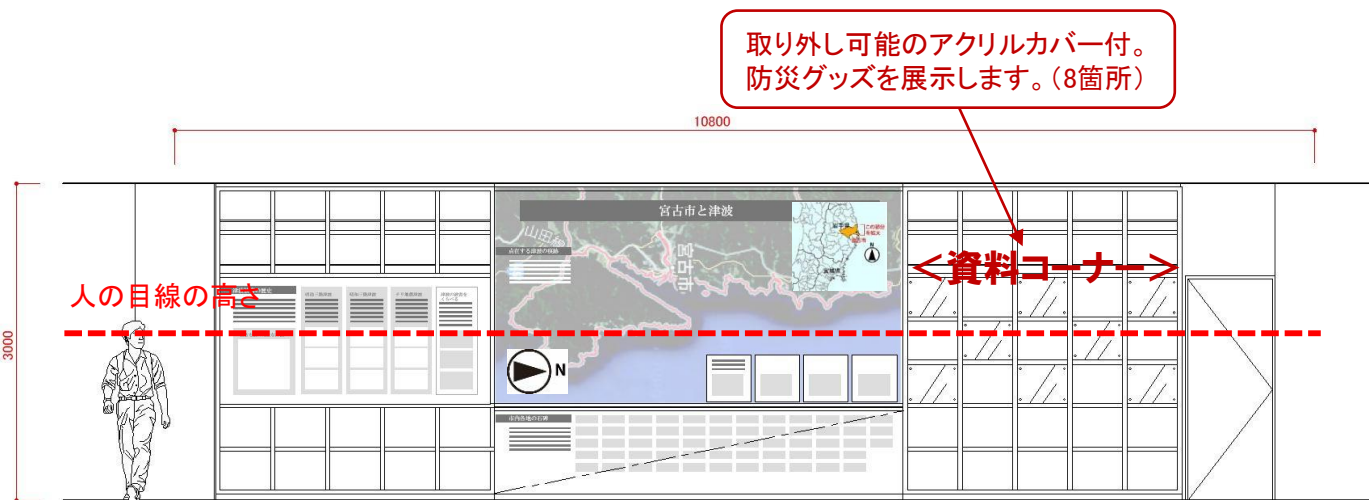
宮古市と津波コーナーに隣接する＜資料コーナー＞は、本棚のような形状になっており、目線にあるアクリルケースの部分では、常に用意しておくといふ防災グッズの実物が展示されています。

また、その上下の部分では、防災や地震、津波に関する書籍等も置かれ、防災・震災についての調べ学習をおこなうライブラリーの役割を果たします。

＜ガイダンスコーナー＞では、55インチ（画面サイズ1920×1080）の大きなモニターを設置します。

DVDを流したり、PCと繋いでミニ講演会やおはなし会を開催したり、市民が集まり活動できるコーナーとして活用することが可能です。

震災・防災について語り継いでいくスペースとして使うことができます。



田畑ヨシさんが1979年に制作した手製の紙芝居。祖父から津波の教訓を聞かされながら育ち、実際に昭和三陸地震の津波に遭うといった実体験の物語で構成されている。

このような紙芝居も、貴重な資料として見せていくことも考えられます。

防災グッズ



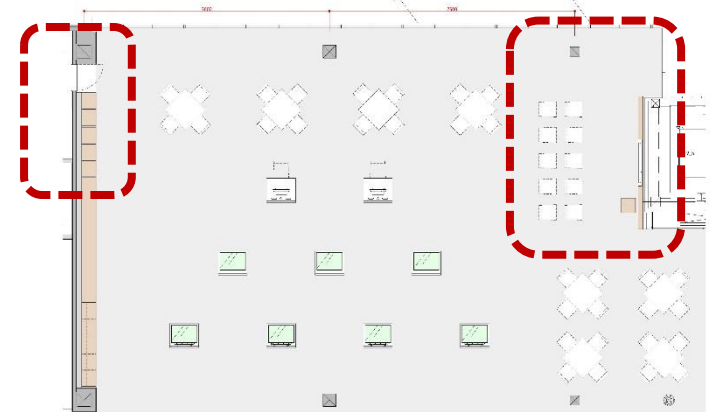
書籍



キープラン

資料コーナー

ガイダンスコーナー



年間の企画展・展開例

可動型の什器、企画展にも対応できる空間。

企画展としては以下のようなものを検討します。

防災展示学習ゾーンにおける企画展のテーマは、防災をテーマとしたものが第一に考えられますが、市民交流センターの性格を考えると、防災以外の内容や市民参加による企画展の開催も考えられます。

そこで、

- ①防災をテーマとした企画展
- ②市民交流をテーマとした企画展

の二つを柱に検討していきます。

また、年中行事や自然風景等をテーマとした装飾を行い、四季の環境演出を行います。

防災をテーマとした企画展（例）

震災被災者の声展

新しい年を迎えるに際して、被災者の思いや新しい年への決意等を集めて紹介する。

災害の歴史展

明治三陸津波や昭和三陸津波等、宮古市が東日本大震災以前に経験した災害をテーマとした企画展を開催する。

防災（一般）に関する企画展

9月1日の「防災の日」にちなんで、津波以外の自然災害や火災等をテーマとした企画展を開催する。

東日本大震災周年企画展

東日本大震災が発生した3月11日を迎えるに際して、震災に関する周年企画展を開催する。

地域に残る津波伝承展

田老や重茂等、年毎に各地域にスポットをあて、その地に残る震災伝承や記念碑等を紹介する。

津波に関する企画展

11月5日の「世界津波の日」にちなんで、津波のメカニズムや世界の津波被害等、津波をテーマとした企画展を開催する。

市民交流をテーマとした企画展（例）

教育委員会等の協力を得て、市内の小学生が描いた絵画を募集し、優秀作品の展覧会を開催する。

子ども絵画展

昭和時代等、昔の宮古市の様子を描いた写真を活用し、ノスタルジーに浸れるような企画展を開催する。

思い出の写真展

絵画をはじめ、書や各種のクラフト等、市民のクリエイティブ活動による作品を一堂に集めた展覧会を開催する。

市民創作活動展

日の出や夕焼け、虹等、市民が撮影した美しい宮古の風景写真を集めて紹介する。

美しい宮古の風景展

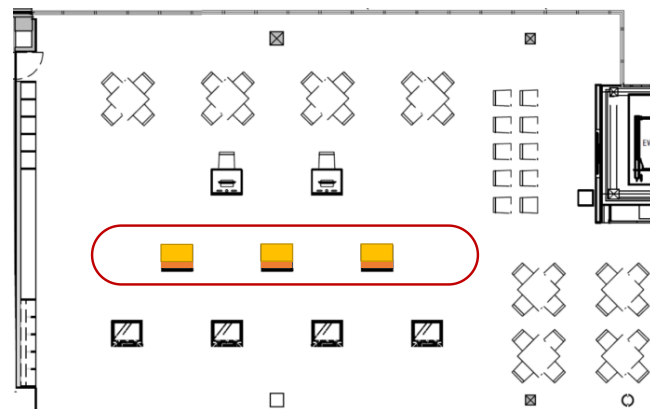
宮古市から手軽に訪れることが出来る三陸沿岸の観光地を紹介する。市民とともに観光客への情報提供の役割を持たせる。

三陸海岸観光展

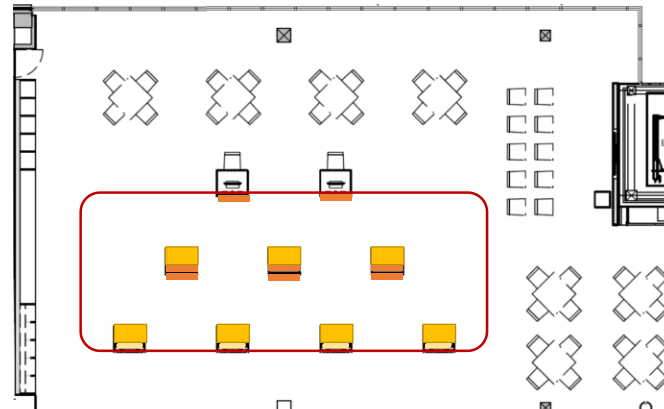
宮古市出身の偉人や宮古市で活躍した人等にスポットをあて、その業績を紹介する。

宮古の人物展

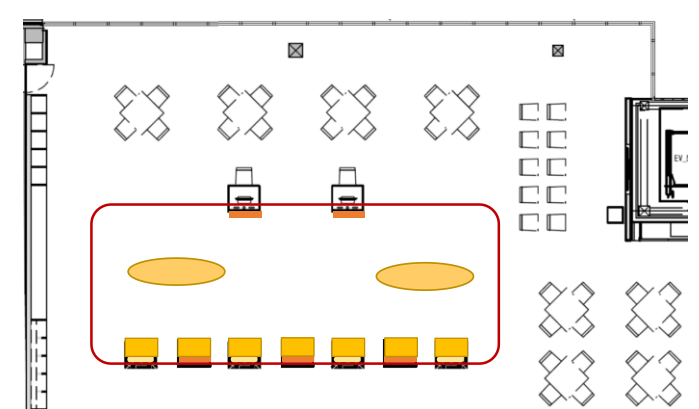
企画展における什器配置換え例



小規模な企画展は、中列の什器グラフィックを覆って使用

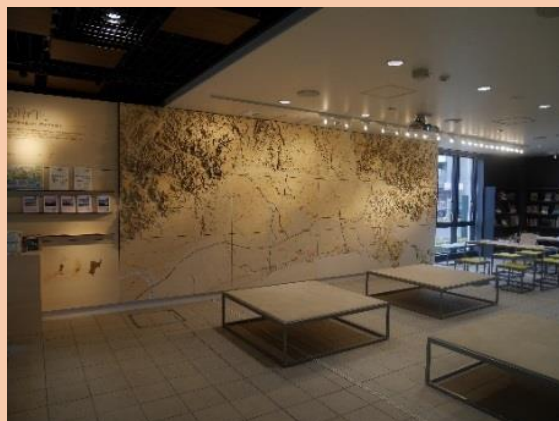


大規模な企画展は、既存什器のグラフィックを覆ったり、サインージのソフトも入れ替えて対応可能



さらには、什器を上記のように動かし、内側にも、別の展示台等を置く事も可能

1. せんだい3.11メモリアル交流館



立体地図

板1枚分を土地の高さ10mとして地形を表し、立体地図は津波の浸水域を着色しています。木製マップものさしは、立体地図の縮尺(1/5800)に合わせて作成されたものさしで、地図上の距離を移動時間に換算できます。



仙台沿岸イラストマップ

来館者の沿岸部での思い出を、仙台在住のイラストレーター佐藤ジュンコ氏が少しずつ描きあげていく更新型のマップです。



わたしたちの3.11

仙台七夕の短冊を通して、来館者同士が発災時の状況と復興への願いを分かち合うことができます。

2. リアスアーク美術館(気仙沼市)



被災物の展示

被災物の展示に当たり、当館では通常の博物館展示と異なる展示手法を用いています。展示被災物には、収集場所、収集日時を記したキャプション(赤色のカード)とともに、ハガキ状の用紙に物語を綴った補助資料を添えています。



被災現場写真の展示

被災現場を五感で知っている撮影者(学芸員)は、現場に立った人間が味わった感覚や思考を伝えることを重要視しています。何を想い、何を伝えるために撮影した写真なのか、その意味を理解していただくために、被災現場写真には全て撮影者自らが執筆したレポートを添えて展示しています。



1. 盛岡中央消防署・防災展示



床マップ

盛岡地区特有の災害や危険箇所・避難場所などを日本最大級の床マップで紹介しています。



消火体験コーナー

初期消火の重要性、消火器の使い方を学ぶことができます。



備えラボ

将来の災害に備えて、日頃から取り組める様々な防災対策を紹介します。



防災シアター

地域で想定される災害や、その対応を大人用映像と子供用のアニメで紹介します。

2. 久慈市防災センター(久慈消防署)



津波シアター

合成画像により利用者自身が津波に飲み込まれるという疑似体験ができます。



体験コーナー

バランステスト、敏捷性テスト、暗闇体験の各コーナー



防災度チェックなど

タッチパネル方式の防災度チェック、消防図鑑、Q&Aの各コーナー



防災グッズコーナー